

令和 8 年 10 月 1 日

お知らせ



課 名	岡山県美作県民局 農林水産事業部農業振興課
担 当	佐藤・大上
内 線	304・305
直 通	0868-23-1469

令和 8 年度（第 59 回）岡山県農林漁業功労者表彰の 受賞者が決定しました！

県では、本県農林漁業の振興のために献身的な活動を続け、その功績が特に顕著で優秀と認められる個人又は団体を表彰する「岡山県農林漁業功労者表彰」について、今年度の受賞者を次のとおり決定しましたので、お知らせします。

本件は、県政記者クラブにおいても本日発表しています。

1 受賞者 別紙のとおり

（参考）表彰状況

部 門	表 彰 区 分	
	知 事 表 彰	農林水産部長表彰
農 産 部 門	6（2）	11（3）
畜 産 部 門	1	3（1）
土 地 改 良 部 門	1	3（1）
林 業 部 門	-	-
水 産 業 部 門	-	-
団 体 指 導 者 部 門	-	1（1）
農山漁村活性化部門	-	1
計	8（2）	19（6）

（ ） は 美 作 県 民 局 管 内 の 受 賞 者 数

2 表彰式

日時 令和 8 年 11 月 12 日（木）15：00～16：00

場所 県庁 3 階 大会議室

（岡山市北区内山下 2－4－6）

部 門	氏 名（年 齢） 住 所	職 業	主 な 公 職 歴	受 賞 歴
農産部門	いけまち ひろみ 池町 浩美 (66歳) 真庭市	農 業	平成23年～29年 J Aまにわぶどう生産組織 協議会理事 平成30年～令和7年 J A晴れの国岡山まにわぶ どう部会会長 令和4年～現在 岡山県農業士	令和4年 岡山県農林漁業功労 者表彰（農林水産部 長表彰）
	<功績概要> 真庭市でぶどう、水稻の複合経営に取り組んでいる。J A晴れの国岡山まにわぶどう部会の初代会長として、令和2年～6年にはハイブリッド産地育成推進事業によるぶどう園地の整備に尽力し、令和5年～6年には、産地マーケティング育成強化事業を活用して部会のマーケティング戦略の策定に意欲的に取り組むなど、産地規模の拡大やブランド力の向上に貢献している。 また、自ら就農希望者の研修受入農家となるほか、農業士としても精力的に活動するなど、新規就農者の確保・育成に大きく貢献している。 さらに、せん定枝を市内の木質バイオマス発電所に供給する取組を先駆的に開始し、令和6年以降は部会にも働きかけて取組を拡大するなど、環境に配慮した農業の推進にも尽力しており、産地の振興に貢献した功績は極めて大きく、県民の模範である。			
農産部門	いしはら まさみ 石原 正巳 (63歳) 津山市	農 業	平成27年～30年 J Aつやま久米南キュウリ 部会部会長 平成28年～現在 就農アドバイザー 令和7年～現在 J A晴れの国岡山久米南キ ュウリ部会幹事	令和元年 岡山県農林漁業功労 者表彰（農林水産部 長表彰）
	<功績概要> 久米南町できゅうり、水稻、白ねぎ等の複合経営に取り組んでいる。夏秋きゅうりを軸として、ハウスでの半促成きゅうりや白ねぎを組み合わせた栽培体系は地域におけるモデルとなっている。 また、技術面においては、新品種や新資材等の栽培試験に積極的に取り組むとともに、その結果を他の生産者と共有することで、部会全体の技術の向上に寄与している。 さらに、新規栽培者の確保・育成の必要性を先頭に立って関係機関に提言し、令和2年から栽培初心者講習会の開催を実現し、自身のほ場を提供して技術支援に尽力するなど、新規栽培者の経営安定や産地振興に貢献した功績は極めて大きく、県民の模範である。			

部 門	氏 名（年 齢） 住 所	職 業	主 な 公 職 歴	受 賞 歴
農産部門	せのお かつあき 妹尾 活明 (51歳) 真庭市	農 業	平成19年～22年 真庭新農業経営者クラブ連 絡協議会会長 平成22年～令和3年 就農アドバイザー 令和4年～現在 岡山県農業士	
<功績概要> 真庭市で水稻、作業受託、野菜苗等の複合経営に取り組んでいる。部門別経営分析や家族経営協定の見直しなどにより経営改善に取り組み、地域目標を大きく上回る所得を実現している。 水稻では、軽量な育苗シート等の利用や栽培管理支援システムの活用、ドローン防除の導入等により省力化と収益性の改善を実現しているほか、湛水直播栽培への取組について積極的に情報発信するなど、地域への技術の波及にも寄与している。 また、野菜苗生産において安価なIoT汎用品を活用した環境モニタリング装置を導入するなど、低コスト化や効率化への取組は地域の模範となっている。 さらに、農業士として次代を担う人材の育成に注力しているほか、農福連携への先進的な取組や、行政等と連携した循環型農業の実践、地元小学生の農業体験の受入など、地域活性化に尽力した功績は極めて大きく、県民の模範である。				
農産部門	たかばたけ のぞむ 高 畠 望 (49歳) 真庭市	農 業	令和元年～現在 就農アドバイザー 令和元年～2年 真庭市蒜山大森地区自治会 長 令和2年～現在 JA晴れの国岡山蒜山トマ ト部会協議会副会長	
<功績概要> 真庭市でトマト経営に取り組んでいる。ハウスを施工業者と共同施工することによりコストを抑えながら県内トップレベルの面積にまで規模拡大を図っており、省力技術と雇用を活用した大規模経営の実践は、地域の先駆的な経営モデルとなっている。 養液土耕システム、マルハナバチによる受粉、主枝2本仕立て栽培などの省力技術を積極的に導入するとともに、その効果をクラウドを活用して積極的に情報共有することで地域へ波及させ、部会員の経営改善に寄与している。 また、就農アドバイザーとして実務研修生を受け入れているほか、遊休ハウスの活用を進めるため、情報のリスト化を部会活動として取り組むよう働きかけるなど、担い手確保に向けた体制整備に尽力している。 さらに、冬季の収入源としてかや等を刈り取って出荷する仕組みづくりや、地域と連携した活動にも積極的に取り組むなど、地域農業の振興に尽力した功績は極めて大きく、県民の模範である。				

部 門	氏 名 (年 齢) 住 所	職 業	主 な 公 職 歴	受 賞 歴
農産部門	はやしだ たみお 林田 民雄 (75歳) 津山市	農 業	平成30年～令和 5 年 J A つやま 柵原ぶどう 部会 副部会長 令和 6 年～現在 J A 晴れの国岡山 柵原ぶど う 部会 部会長 令和 8 年～現在 J A 晴れの国岡山 柵原ぶど う 部会 水利部 部会長	
	< 功績概要 > 美咲町でぶどう経営に取り組んでいる。複数の品種とハウス栽培を組み合わせ て労力分散を図り、部会平均の 2 倍を超える大規模経営を実践するとともに、基 本に忠実な栽培により高い秀品率を確保しており、地域の模範となっている。 共同選果場の責任者となった平成18年当時、人材不足により一時休止状態とな っていた共同選果の再開に尽力し、部会員の労働負担軽減に貢献した。 また、柵原ぶどう部会の副部会長となった平成30年から、空き園地情報を集約 して希望者とのマッチングに取り組むほか、部会長に就任した令和 6 年以降は、 部会で初めて実務研修生を受け入れるなど就農希望者の支援に尽力した結果、平 成30年以降、18名の新規栽培者を確保するなど、産地の振興に果たした功績は極 めて大きく、県民の模範である。			
畜産部門	こだに とおる 小谷 徹 (49歳) 真庭市	農 業 (ジャ ー ジ ー 酪 農)	平成24年～現在 蒜山酪農農業協同組合 理事 平成30年～令和 5 年 おからく ジャー ジー 改良 同志会 会長	平成26年 矢野賞
	< 功績概要 > 真庭市蒜山地域で牛舎整備によりジャージー成牛80頭規模まで増頭し、積極的 な新技術の導入、個体管理の徹底や高能力牛群への改良による高乳量の実現な ど、地域のジャージー酪農経営のモデルとなっている。 更に遊休農地の借受により飼料基盤を拡大して良品質な自給飼料生産に取り組 み、粗飼料自給率が80%を超えているほか、4戸の酪農家とともに共同収穫組合を 設立して組合長に就任するなど、資源循環型の自給飼料生産を実践している。 また蒜山酪農協の新商品A2ミルクの開発に協力し、指定農場として生乳を供給 するなど、蒜山地域のジャージー酪農振興に尽力した功績は極めて大きく、県民 の模範である。			

部 門	氏 名 (年 齢) 住 所	職 業	主 な 公 職 歴	受 賞 歴
土地改良 部門	ふくなが たくし 福永 卓志 (78歳) 奈義町	農 業	平成28年～令和4年 大谷池土地改良区理事 令和4年～現在 大谷池土地改良区理事長 令和2年～現在 多面的機能支払交付金 広岡地区活動組織副代表 平成22年～現在 中山間地域等直接支払交付金 広岡西農地保全組合 土地改良施設担当役員	
<功績概要> 大谷池土地改良区の理事及び理事長として、健全な土地改良区の運営や土地改良施設の適正な管理、積極的な女性役員の登用に尽力している。 また、土砂流入や老朽化により決壊のおそれがある大谷池の改修に向け、組合員に改修の必要性を説明し、県との連絡調整に尽力して工事着手を実現した。 さらに、工事中も営農を維持できるよう奔走し、農業用水の安定供給と地域農業の振興に寄与した功績は極めて大きく、県民の模範である。				
団体 指導者 部門	うじひら よりみつ 氏平 頼光 (78歳) 津山市	団 体 員 役 員	平成24年～令和7年 津山地区木材組合 理事 令和6年～現在 真庭地区木材組合 副理事長	令和2年 全国木材組合連合会 会長表彰
<功績概要> 平成24年から津山地区木材組合の理事を務め、木材・建築関係者等が連携する木の国美作ネットワークの設立や、美作材を活用した設計コンテスト、DIY、木造住宅見学ツアー等を実施し、木材利用の拡大と木の文化の普及に尽力した。 また、令和6年からは真庭地区木材組合副理事長として、合法木材等の普及を目的に県建築士会と連携した研修会を開催するとともに、木材市場事務所の内装を木質化し、地域イベント等で活用するなど、木材と触れ合う場の創出にも取り組んでいる。 これらの先導的かつ継続的な活動を通じ、県産材の普及と需要拡大を長年牽引するとともに、木材業界の発展に寄与した功績は極めて大きく、県民の模範である。				